

私見と推測を述べた。

29. ^{67}Ga -scan の有効であった opportunistic infection の1例

菅 正康 宮前 達也
(埼玉医大・放)
原 真弓
(同・二内)

^{67}Ga -citrate による、種々の悪性腫瘍スキャンの応用は、一般に広く実施されているが、一方炎症巣検出への応用に関しては、まだ一般的とは言えない。今回われわれは、その潜在性炎症巣検出の目的で、スクリーン5検査として、長期大量ステロイド投与中の SLE 患者に施行し、有効であったとともに興味ある知見を得たので症例を中心に報告する。

症例は 40 歳女、多発性関節障害を主訴とする SLE であり、メチルプレドニゾロン大量投与中、無症候性の E. Cloi 細菌尿を呈し、血沈、CRP の亢進のため、腎感染巣検索の ^{67}Ga -scan にて、腎盂腎炎（無症状）の発見、および、偶然であるが、カンジタ性肺炎が発見された。特に後者は、胸部 X-P にて散布性粒状影の出現に約 10 日間先行するものであったため、肺病変の存在を予告する形となり、興味ある点であった。

この例のごとく、いわゆる opportunistic infection の型で合併する、真菌、細菌感染巣の存在は、臨床上、症状の隠ぺい等により、発見が遅れやすく、注意を要する点であるために、この領域への ^{67}Ga -scan の積極的応用が期待される。

鈴木（東海大・放）より集積の機序として、血中の MAA に形成、感染症、肺石灰症などがあると comment がなされた。

30. 神経芽細胞腫の治療中 ^{67}Ga の肺内集積をみた1例

伊川 広道 石田 治雄
難波 貞夫
(都立清瀬小児病院) (同・外)
福本 忠典 大森 一彦
佐々木省子 高山千代子
(同・放)
石井 勝己
(北里大)

われわれは腹部神経芽細胞腫の治療中 ^{67}Ga の肺内集積をみた1例を経験した。症例は4歳2カ月の男児。左腹部を中心とした巨大な神経芽細胞腫で、大動脈を巻き込むようにして発育しているため第1回の手術は腫瘍の部分切除で終わった。しかし術後エンドキサン、ビンクリスチンの投与に、放射線照射の併用療法を行なったところ、腫瘍は触知しなくなり、第2回目の手術で残存腫瘍の摘出とリンパ節廓清を施行する事ができた。この患者にたいして4回の ^{67}Ga チトレートによるシンチグラムを行った。第3回目すなわち、エンドキサン1日40mgを13日間投与し39日経過後、ビンクリスチン1回0.8mgを5回投与し41日経過後でありまたリニアック1回150Radを19回照射した時点でのみ、全肺野にわたり強い ^{67}Ga の集積が認められた。臨床的にも胸部写真でも異常は認められなかった。エンドキサンによって間質性肺炎をおこすという報告はあるが、本症例に於ても全肺野に ^{67}Ga の異常集積を来したのはエンドキサンによる間質性肺炎のためであるとはいえないが、エンドキサンが肺になんらかの影響を与え、そのために一過性に肺に ^{67}Ga が異常集積したのではないかと考え報告した。

朝倉（横浜市大・放）より自験例についての追加が、菅（埼玉医大・放）より X 線検査との比較についての comment がなされた。